

木彫による造形研究 2016

クロッキー&ドローイング

岩井 義尚 *Yoshinao Iwai*

(美術学部)

作品の形の素は、「自然のモノをデッサンしていると、その源は球体、それも機械的な球体ではなく、心地良い球体の単体又は複合体である」と考える。私の創作は、この考えを基に「視覚に訴えかけるのに重要である水平要素・垂直要素」そのものが創り出す空間」を使い構成している。



第 39 回 中部二元会展 2017.3.14 ~ 3.20

愛知県美術館ギャラリー 8F G1.G2.H.I 室 (名古屋市)

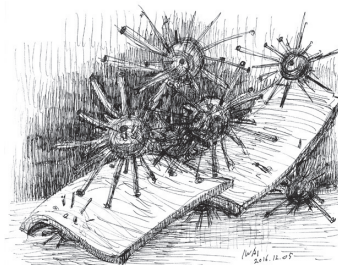
テーマ；「動き」「流れ」「生」

作品における一つの方向は、テーマからイメージし、形の根源を動物（人も含む）・植物・自然現象から創作要素を探り、構成を考慮し、素材（木）を彫ることにより形（Form）を創り出す手法で具現化した集合体で表現している。

平面作品は、ペンで描く多くのフリーハンドの線の重ねにより、人物の構成し、立体作品に影響するエスキースの要素を含むドローイングと人体クロッキー（各種描画素材）により、テーマを表現する研究をしている。



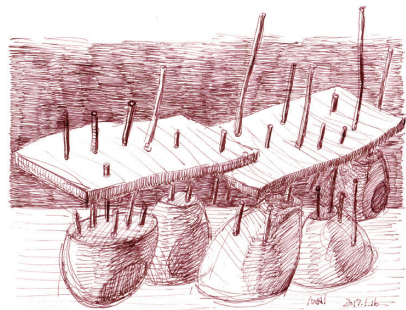
Form 1701
ケヤキ+ヒメコマツ+イチイ他
H180×W195×D205 (cm)



海の中の生物の生態や動きを研究し、海面下における世界を単純な形と二つの面、二層構造にして広がりをつけ、単体同士の繋がりと対比により「動き」と「生」を視覚的に表現した。
(中部二元会展出品)



Form 1702
 クス+ケヤキ+ヒメコマツ+イチイ
 H142×W227×D84 (cm)



Form 1701 と同様に、海の中の生物の生態や動きを研究し、海面下や海底における世界を三層構造にし、特に「生」を意識し視覚的に表現した。(中部二元会展出品)



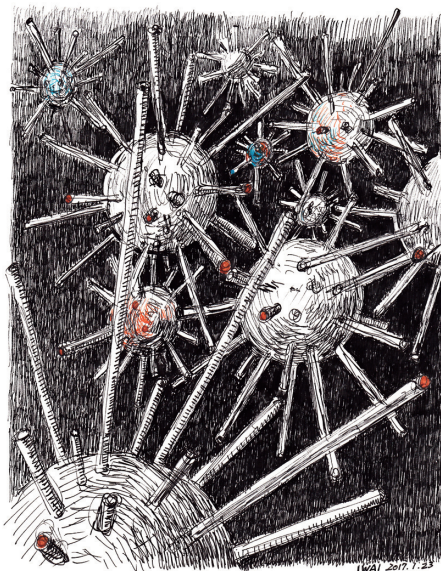
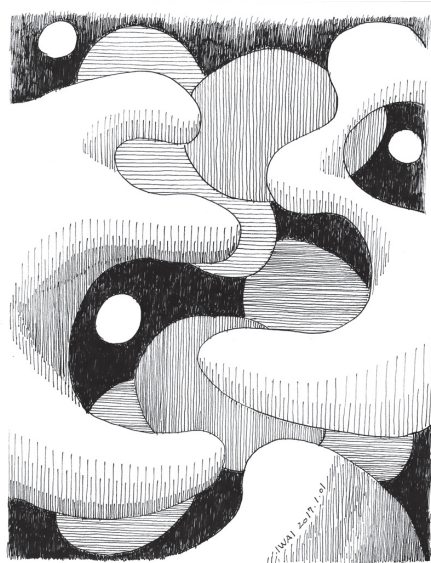
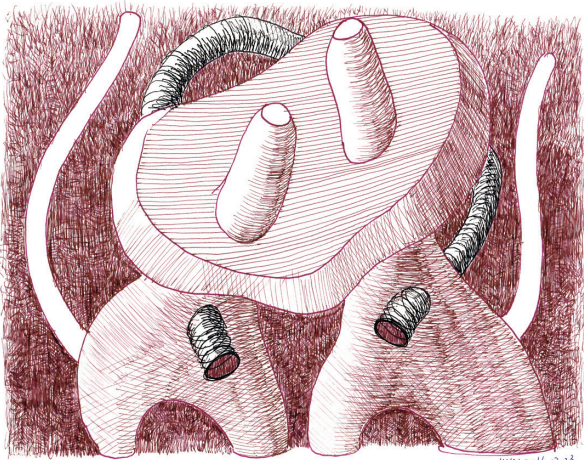
Form 1602
チーク+クス
H78×W68×D50 (cm)

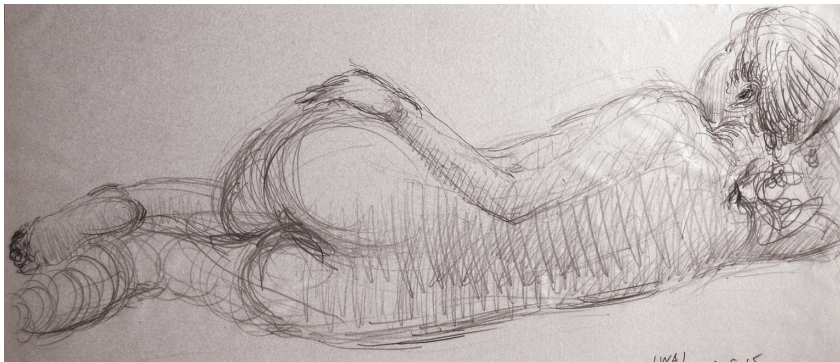
Form 1602は、人間の形を基に考え、素材の持つ色素を生かし、うねる形の積み重ねにより「生」を表現している。「木彫を楽しむ partXVII」作品展に出品

Form 1603は、ケヤキ材の一木造りで、内面の心の「動き」を、彫り込む形で表現している。中部二元会研究展に出品



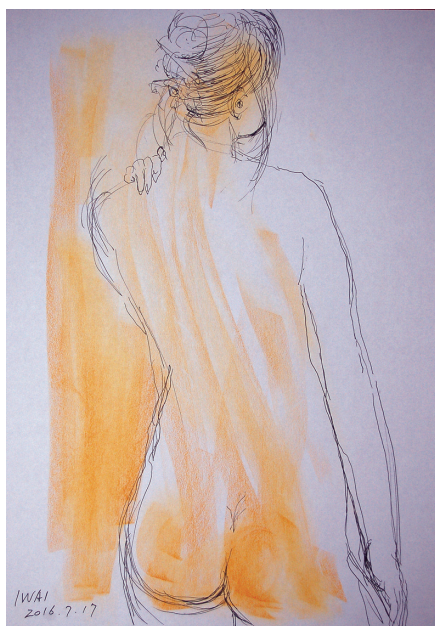
Form 1603
ケヤキ
H40×W44×D24 (cm)

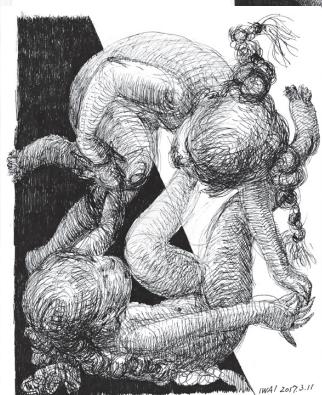




**クロッキー
(デッサン)**

現在所属している中部二元会の研究会での成果で、和紙や上質紙に鉛筆を主に色はパステルで、「動き」「流れ」「量」を意識して描いている。同会の研究展出品及びクロッキー・デッサンの講師をしている「Art of 20 歩」の会の作品展に賛助出品している。





ドローイング

これらのペン画は（4ページ目にもある）、立体やレリーフ作品のためのアイデアを平面考察したもので、「浮遊した子供の形を借りて、「動」を特に意識し表現している。

